

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	家庭総合①	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	・子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。 ・保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	子どもについての関心を持ち、意欲的に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①②④の成績 ・学習プリントの完成度 ・作品の完成度	・定期考査①②④の評価該当箇所の成績 ・作品(製作過程を含む) ・学習プリントの完成度 ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言	・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前期	4月	これからの生き方と家族	定期考査①	22
	5月	次世代を育む		
	6月			
	7月	衣生活をつくる	定期考査②	18
	8月	②被服製作		
	9月	③被服材料と管理		
後期	10月	④これからの衣生活	定期考査④	18
	11月	住生活をつくる		
	12月			
	1月	①人の一生と住まい		
	2月	②住生活の計画と選択		
	3月			

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・家庭科は実験・実習など、実践や体験を通して学ぶことを重視している教科です。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくことと提出が期限までにスムーズにできます。

・定期考査③は実施せず、被服の作品製作による評価とします。

6 教科書・副教材

高等学校 家庭総合 (第一学習社)
生活学-Navi- (実教出版)

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	家庭総合②	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な高齢者との関わりと福祉、食生活、持続可能な消費生活・環境についての知識を身に付けている。 ・高齢者との関わりと福祉、食生活、持続可能な消費生活・環境における生活の営みに必要な技能を身に付けている。 	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の成績 ・学習プリントの完成度 ・実習手順の正確性、完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の評価該当箇所の成績 ・作品(製作過程を含む) ・学習プリントの完成度 ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時数(予定)		
前期	4月	充実した生涯へ	定期考査①	22		
	5月					
	6月	食生活を作る			定期考査②	18
	7月					
	8月					
9月	経済生活をつくる	定期考査④	18			
10月						
11月						
12月						
後期	1月	③持続可能な社会を目指して	定期考査③	20		
	2月					
	3月					

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・家庭科は実験・実習など、実践や体験を通して学ぶことを重視している教科です。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくことと提出が期限までにスムーズにできます。

6 教科書・副教材

高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる(第一学習社)
生活学-Navi- (実教出版)

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	フードデザイン	単位数	2単位
-----	---------	-----	-----

1 科目の目標

食の安全に留意し、健康的な食生活を送るための栄養、食品、調理などに関する知識と技術を身につけ、実践していく態度を養う。実践的・体験的な学習活動を通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上に向けて資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。

(2) 家庭や地域及び社会における食生活の現状から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活を主体的に営むために必要な栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートについての知識を身に付けている。 ・食生活を総合的にデザインするために必要な技能を身に付けている。 	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現するなど、課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働して、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の成績 ・学習プリントの完成度 ・実習手順の正確性、完成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査①～④の評価該当箇所の成績 ・作品(製作過程を含む) ・学習プリントの完成度 ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時数(予定)
前期	4月	食生活と健康	定期考査①	22
	5月	栄養素のはたらきと食事計画		
	6月	食品の特徴・表示・安全		
	7月	調理の基本	定期考査②	18
	8月	調理操作 調味操作		
	9月	調理実習		
後期	10月	食品の特徴・表示・安全	定期考査③	20
	11月	食育 料理様式とテーブルコーディネート		
	12月	テーブルコーディネート		
	1月	献立作成	定期考査④	18
	2月	調理実習		
	3月	調理実習 4回		

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

フードデザインは講義と実習を通して知識の定着をはかり、実験・実習などの実践や体験を通して技術や技能、調理理論を学ぶ教科です。授業に参加することを大切にしてください。プリントもその都度、授業内で取り組んでおくことと提出が期限までにスムーズにできます。

衛生的且つ安全に調理実習を行うために、エプロンや三角巾、爪などの身支度には細心の注意が必要となります。

6 教科書・副教材

フードデザイン (実教出版)
 生活学-Navi- (実教出版)

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	保育基礎	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次の通り育成することを目指す。
 (1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
 (2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
 (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	・子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身に付けている。 ・保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。	子どもの発達をふまえ、現状について見直し、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	子どもについての関心を持ち、意欲的に取り組み、子どもの発達や子育て支援に寄与していこうとする実践的な態度を身に付けている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・定期考査①③④の成績 ・学習プリントの完成度 ・作品の完成度	・定期考査①③④の評価該当箇所の成績 ・学習プリントの完成度 ・作品(製作過程を含む) ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言 ・実習レポート	・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前期	4月	子どもの保育	定期考査①	22	
	5月				
	6月				
	7月	子どもの発達			
	8月				子どもの生活
	9月				
後期	10月	子どもの文化	定期考査③	20	
	11月				
	12月				
	1月	子どもの福祉	定期考査④	18	
	2月				
	3月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

・授業プリントはその都度、授業内で取り組んでおくと提出が期限までにスムーズにできます。
 ・年間を通じて、折り紙やカード、手作り玩具、絵本の読み聞かせなどの実習や発表があります。
 ・定期考査②は実施せず、作品製作による評価とします。

6 教科書・副教材

保育基礎 (実教出版) 生活学-Navi- (実教出版)

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	服飾手芸	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的な手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 手芸の種類と特徴及び変遷、各種手芸の技法などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 手芸の美的価値及び製作工程に関する課題を発見し、手芸品の製作と服飾への活用を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 手芸品の製作を目指して自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・手芸の種類、手芸の変遷、各種手芸の技法、表現に適した材料についての知識を身に付けている。 ・服飾への活用を目指し、各種手芸の技法、表現に適した材料や手芸技法に関連する技術を身に付けている。 	美的価値が高い作品製作及び合理的な作品製作のための課題を発見し、その解決に向けて効果的な表現方法を考察し、表現することができる。	各種手芸の技法について自ら学び、創造的な製作と服飾への活用に主体的に取り組むことができる。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成度 ・学習プリントの完成度 ・実習における製作手順の正確性 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品(製作過程を含む) ・学習プリントの完成度 ・授業中の回答 ・話し合いの中での発言 ・実習レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での説明を聞く態度 ・学習プリントへの取り組み ・実習への取り組み ・話し合いの中での発言 ・出席状況 ・生徒の自己評価

4 年間指導計画

学期	月	学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時数(予定)	
前期	4月	手芸の種類と特徴① 手芸の変遷と暮らしの背景 手芸品の製作	手芸の移り変わりの概要 手縫いによる基礎作品の製作	/	22
	5月				
	6月	手芸の種類と特徴② 手芸品の製作	ミシンと手縫いによる基礎作品		
	7月				
	8月				
9月	服飾材料としての各種手芸の技法 手芸品の製作	応用作品の製作	18		
後期	10月	服飾文化の伝承と創造 手芸品の製作	服飾にかかわる伝統工芸 応用作品の製作	/	20
	11月				
	12月				
	1月				
	2月				
	3月				

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

授業のほとんどが製作実習となります。根気よく製作に取り組み、作品を完成させて提出することが単位認定のために必要です。作品は、原則として授業内で完成させます。授業に参加することを大切にしてください。また、プリントもその都度、授業内で取り組んでおくことと提出が期限までにスムーズにできます。

6 教科書・副教材

--